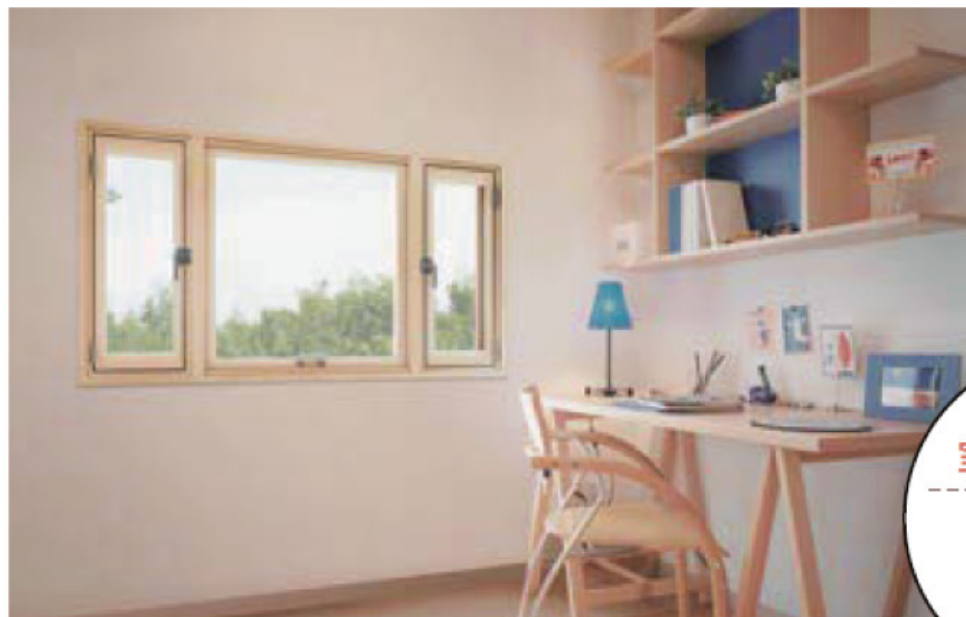


防音・断熱内窓 在宅ワークを快適にする秘訣は「窓」にあり。



今ある窓の内側に、もう1枚窓を取り付けるだけで、防音効果も断熱効果もぐーんとアップ。省エネ効果もアップして、冷暖房費の節約にもつながります

気になる音を入れない、出さない

今ある窓とインプラス、その間の空気層が障壁となり、高い防音効果を発揮。交通量の多い道路レベルの騒音も、図書館レベルの静かさに！

※音の種類によって得られる効果が異なります。 ※このカタログのサッシ・ドアセットに示されている遮音性能は、JISで定められた方法により実験室で測定した測定値です。実際の建築物の現場で測定したとき、実験とは音場*が異なるので、それぞれの測定値に差異が生じます。（*音場：音波が伝わっている空間の状況を示す。）



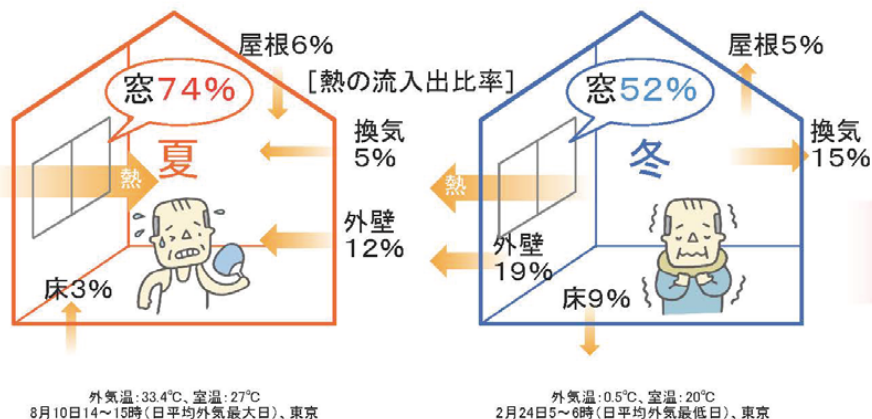
いちばん重要なのは「窓」の断熱なんです。

断熱といえば壁の断熱材と
思いませんか？

断熱の最大の弱点は、「窓」

窓は、熱の出入りが一番多い場所。

壁と比べると夏は約**6倍**、冬は約**3倍**の差があります。

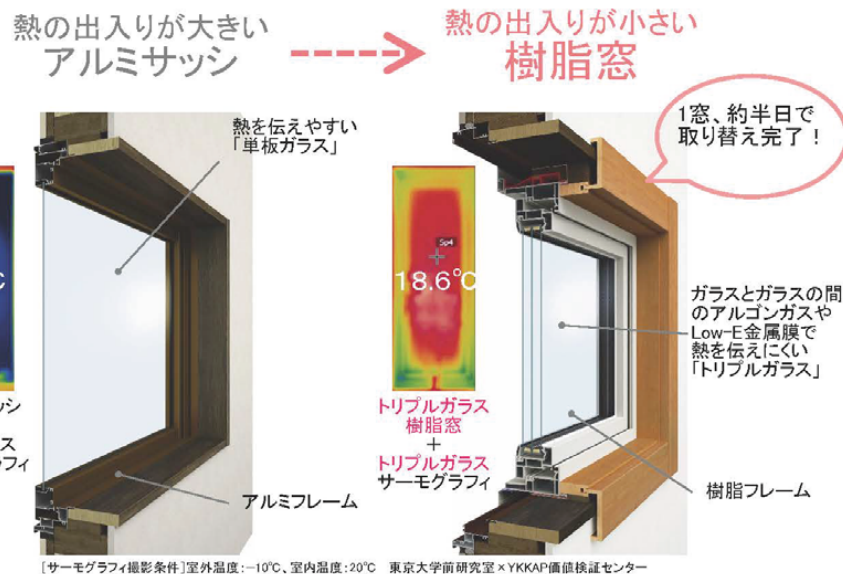


※「平成25年省エネルギー基準に準拠した算定・判断の方法及び解説Ⅱ住宅」標準住戸のプランにおける例で、AE-Sim/Heatによる当社の計算結果より。窓種: アルミ(複層ガラス)
●使用ソフト: AE-Sim/Heat(建築の熱環境シミュレーションプログラム)/株式会社建築環境ソリューションズ
●気象データ: 気象庁メテオデータ/2000年統計年(一社)日本建築学会
●住宅モデル: 「平成25年省エネルギー基準に準拠した算定・判断の方法及び解説Ⅱ住宅」標準住戸のプラン2階建て/延床面積: 120.08㎡/開口率: 26.8%(4~8地域)
●断熱: 平成11年省エネルギー基準適合レベル

かんたん
解決

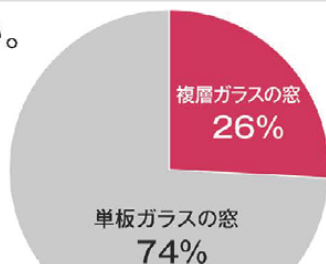
最新の窓にするだけで、家全体の快適性アップ

かんたんマドリモで、新築にも使われている最新の樹脂窓へ。



日本の家は、いまだ低断熱な窓が多い。

住宅建築の省エネ基準として、窓からの熱の出入りを抑える「複層ガラス」の設置が定められたのは、1999年から。この基準以前の「単板ガラス」の家が大部分を占めているのが日本の現状です。



平成25年住宅・土地統計調査結果(総務省統計局)

欧米では窓をかえることはあたりまえ！

欧米では、古くなった家を取り壊して新築するばかりでなく、リフォームして長く住み継ぐ文化が根づいています。たとえばドイツでは、建設投資額のうち7割以上※1をリフォームが占め、窓などの断熱リフォームが年間約120万戸実施されています。アメリカでは住宅取引の9割以上※2が中古住宅で、リフォームして住むことが一般的。年間の窓の販売総数の8割近くをリフォーム用の窓が占めるほどです。これは、窓をかえるだけで快適性が高まるのが一般に理解されているからといえます。

※1: DIW: Strukturdaten zur Produktion und Beschäftigung im Baugewerbe-Berechnungen für das Jahr 2010より
※2: 国土交通省「中古住宅流通促進・活用に関する研究会」資料より

